

16 一工業都市における市民の家庭経済分析

——八幡市民の生活費及び購買状況実態調査——

有沢 照

1 工業都市における市民の生活実態を分析し、給与所得者の生活水準を知ることがを目的とした。

2 1958年8月9月の2ヵ月間、八幡市民6万9千戸中30分の1の無差別抽出により2300戸をサンプルとし戸別訪問により聞き取り・記入の2方法をとって実態調査をした。

3

(1) 家族数と世帯数…1戸4.7人、4、5人家族の世帯がそれぞれ400戸以上で最大を示す。

(2) 生活費は記入者が不馴れのため没になったものが多かったが、所得が多い。世帯年齢が若いためぜいたくな生活が多い。

(3) 職業別生活費は工員の多い関係上2万～3万代が多い。

(4) 同市以外の市場利用が13%以上もあり、従って市外に流れ出る金が多い。

(5) 日常消費物以外の高級商品は市外に求められる。

(6) 月賦に支払う金は毎月所得の約10%である。

(7) 比較的低所得者に月賦販売の利用がなされる。

(8) 八幡市民の購買力は大きく、市民の収入が安定している。

(10) 市場を利用する最大の理由は近距離であること、値段の安いこと商品の多いこと、があげられた。